



社会福祉  
法人 豊中市社会福祉協議会

# ボランティアセンターだより

2004年(平成16年)10月15日

第40号

発行 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより編集委員会

〒561-0881 豊中市中桜塚2-28-7 Tel (6848)1000

URL: <http://www3.ocn.ne.jp/~tcpvc>

E-mail: [tcpvc@gold.ocn.ne.jp](mailto:tcpvc@gold.ocn.ne.jp)

ボランティアグループ  
あれこれ

## 友愛電話訪問ボランティアグループ

# 「聴くの会」 編

「聴くの会」は、市内在住のひとり暮らしの高齢者で、電話を希望する方に、ボランティアセンターから月1回電話をかけ、その方の安否と日々の思いをお伺いする友愛電話活動グループです。希望者は現在約80名、グループのメンバーは20名です。毎週火曜日の午前と午後に各担当者が電話をしております。相手のお話を単に耳で聞くだけではなく、相手を尊重し心で受けとめて聴く態度を身につけるため、毎年3～4回専門の先生による研修を受け、努力をしております。

本年5月3日、はからずも市長表彰を受けました。しかし、電話のつど、今日もこれでよかったのかと反省の日々です。ひとり暮らしの高齢者が増加している社会の中で、ごく一部の方々にだけですが、5年・10年と歳月を重ねて電話は続いております。お声を聴くだけですが安否が確認され、お互いの心が寄り添い、絆が深まり、いささかなりともサポートの役割が果たせたらと願っています。(聴くの会 C. M.)



「もしも、お元気ですか？」



### 活動に興味のある方は...

#### ★定例会

毎月 第4木曜日 10:00～12:00

#### ★活動日

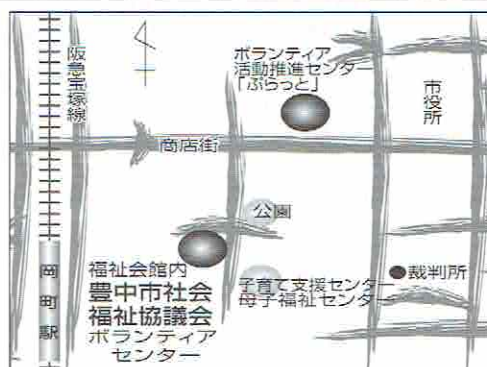
毎週 火曜日 10:00～13:00  
13:00～16:00

#### ★場 所

豊中市社会福祉協議会  
ボランティアセンター  
豊中市中桜塚2-28-7 (福社会館内)

#### ★電 話

06-6848-1000



# 学校でのボランティア体験



車イス体験をお手伝い

上野小学校3年生の皆さん、車いすに座ってみてどう思いましたか、体験は初めての方がほとんどでしょう。体育館横のスロープから校舎を抜け運動場へ出て砂場へ進みました。スロープの登りでは力がいりました。校舎の出入り口は少し段差があるので、チョット手間取りましたね。気をつけて運動場へ降りました。

## 要約筆記グループ「ダンボ」

「要約筆記」は、耳に障害がある方に情報を伝える方法の一つです。この「要約筆記」がなにかよくわからないまま参加された方が多い中で、「要約筆記」とはどういうものか、また、どのように役に立てるのか、伝えたいと思いました。

難聴者の方が日々の生活の中でどのような不自由さがあるのかをご自分の体験からわかりやすくお話くださいました。皆さん、少なからず現実を感じてくださったようでした。

まず、違う立場の方を知るということが大切なのではないでしょうか。同じ中学生の中でもさまざまな立場の人がいるかもしれません。そ

## 上野地区社会福祉協議会

平坦な所はスイスイ行きましたが、砂場は移動が大変。バックの方が動きやすいことも知りました。皆少しずつ交代だったので充分体験できたとは思いますが、車椅子を使っている人に対する思いやりが芽生えてくれれば良いですね。困った人を見かければ手助けできる気持ちが大切です。これを機に痛みの分かり合える大人に成長してくれるよう期待します。

(大久保 孝さん)



の中で、自分はどうしていこうかな、何ができるかなと考えるきっかけになるかもしれません。また、身近

なところで不自由を感じている人がいることに気付いた時、「要約筆記」を思い出してもらえるかもしれません。初めは10人弱でも、少しずつ知っていく人が増えれば良いと思います。そのためにも「要約筆記」とふれあうことができるこのような機会はとても貴重だと思います。(田口 晴子さん)

一口メモ

ボランティアセンターでは、学校でのボランティア体験学習を実施する際にさまざまな支援を行っています。

### ★平成15年度 小・中学校ボランティア体験学習 支援状況★

- ・講師ボランティアの調整 : 34回 (延べ66グループ)
- ・体験機材(車椅子、アイマスク、白杖、インスタントシニア装具)の貸出し  
28件
- ・社会福祉協議会職員によるボランティア講演 : 5回
- ・「教職員のためのボランティア体験学習研修会」参加者 : 21校 24名

# 学習を支えるボランティア

実施され、各学校でさまざまな取り組みが行われていま市内のいろいろなボランティアグループや校区福祉委員をご紹介します。

## 点字サークル「つくしんぼ」

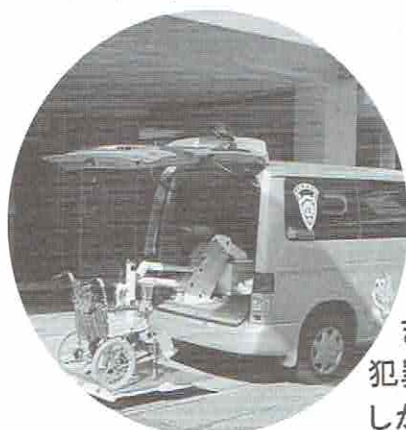
最近各学校では総合学習として点字体験が盛んに行われるようになってきました。点字は、視覚障害者にとって唯一読み書きともに便利な文字として使用されています。しかし、その歴史は浅く、世界で最初にフランスのルイ・ブライユが考案してから約 180 年、石川倉治がこれを日本語に翻案してから、わずか 110 年ほどにすぎません。

点字は縦3点・横2点、計六つの点の組み合わせからなり、化学式から楽譜に至るまでをあらわすことが

できます。

多くの視覚障害者は、

これを指先で読み取っているわけで、それゆえに触読文字とも呼ばれます。町中では、駅の運賃表や券売機、階段のてすり、エレベーターの行き先ボタン、建物内の触知地図、音響式信号機のポール上、日常生活ではアルコール飲料缶や一部の家電製品などに広く点字が使われるようになってきました。皆さんもぜひ点字に親しんでください。（三上 洋さん）



ボランティアに関わって約3年、その体験談を小・中学校で語る機会がありました。低年齢化する凶悪犯罪対策は、教育制度見直しは急務と痛感する私にとって、少しでもお役に立てばとの気持ちもありました。人には誰にでも「やさしさ」「思いやり」の気持ちがあります。

ただ、それを如何に形にするか、なかなかその一歩が踏み出せません。還暦を過ぎた私が、ボランティアに出会えた理由の一つに、体力に自信ができた事があげられるでしょう。

## 運転ボランティア「豊中アッシー」

さあ諸君、校庭に出て思いっきり走り回って下さい。元気な体を作ってください。きっと君の「やさしさ」「思いやり」の気持ちが、一歩前に歩み出す事でしょう！（和氣 一也さん）

ただ、それを如何に形にするか、なかなかその一歩が踏み出せません。還暦を過ぎた私が、ボランティアに出会えた理由の一つに、体力に自信ができた事があげられるでしょう。

## 教職員のためのボランティア体験学習研修会

ボランティアセンターでは、有意義な体験学習を行っていただくために、教職員のみなさんを対象に研修会をボランティアグループの協力を得て、毎年実施しています。

### 《研修会に参加して》

外出支援ボランティアグループ「みちしるべ」 細谷正純さん



ここ数年、小・中学校でのボランティア体験学習が盛んになってきており、子ども達がボランティアに対する関心ができていることは、非常に良いことである。一方、その当事者である先生達のボランティアに対する認識は、果たしてどうだろうか。この研修会に参加される先生達は多分意識も高いと思われる

が、この意識で、子ども達に対しぜひ、ボランティアの精神と、優しさ、思いやりの心などについて、学校において自分の言葉と行動で実行して欲しい。そのためにも、今後ともこの研修会を継続し、より多くの先生達に参加していただき、ますます盛況になることを期待したい。



みんな  
来てね!

# ぷらっと情報

オープンしてから、3年目。ボランティア活動を始めたい方から活動中の方まで、多くの方々にご利用いただいています。まだ一度も訪れたことのない方、何度も利用したことのある方もぷらっとお立ち寄り下さい!

## 利用内容

- ★ボランティア・地域活動に関する情報提供
- ★ボランティアに関する相談窓口
- ★ボランティアはじめま専科などミニ講座の開催
- ★ボランティア関連図書・ビデオ等の貸出し
- ★ボランティアグループ活動・ネットワークの支援

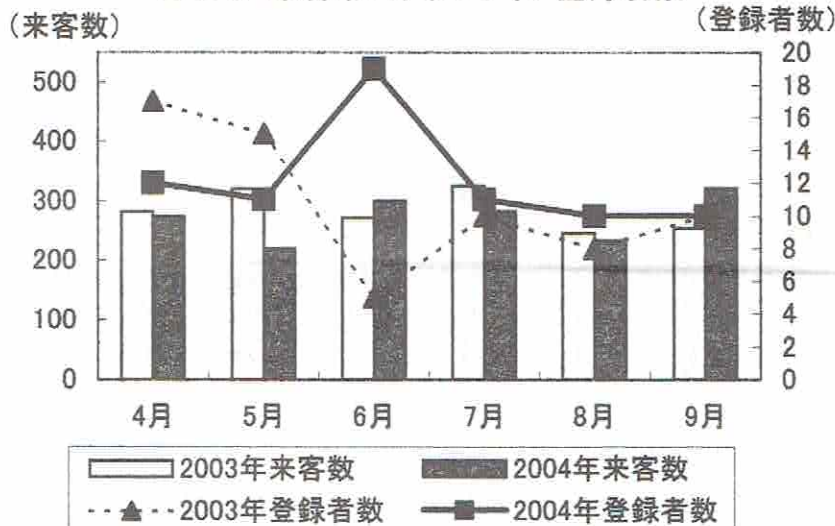
など

### 《利用時間》

10:00~17:15

(土・日・祝日・年末年始  
休み)

ぷらっと来客数とボランティア登録者数



2003年では、来客人数は3228名、新規ボランティア登録者数は125名でした。今年度4月~9月までの、来客人数は1631名、新規ボランティア登録者数は73名です。



## ボランティアはじめま専科 実施中

「ボランティアには関心があるけれど何から始めたらいいのかわからない」「私に向いている活動ってなんだろう?」という方を対象に、豊中市内のボランティアグループの活動やぷらっとの活動内容を知っていただく為に開催しています。内容は、点字やリサイクル小物作り、保健師による子育ての講習などボランティアグループによっていろいろ。昨年は25回開催し、延べ97名の方が参加されました。いくつも参加して自分にあう活動を探す方も。今年もすでに5回実施。34名が参加され、ボランティア活動探しをしています。

### 手話サークル「あさなぎ」編 (谷井さん、塩沢さん、長尾さん)

9月7日「あさなぎ」の会員3名が担当することになりました。残暑の中、11名の参加者があり、「指文字」と「簡単なあいさつ」を学び、各自の名前を手話で表すことができるようになりました。10分間の休憩も惜しんでテキストで勉強するほど熱心な人ばかり。手話は難しいというイメージを一新し、手話のサークルに参加したいという人も出るほどに

皆さん関心を持たれたようです。手話には語源があり、アルファベット、数字、物の形から表現できるもので、決して難しいものではないという認識を深めていただけたようです。小学校唱歌「ふるさと」を手話で表し、和気あいあいのうちに、体験講座の2時間が終わりました。

# ボランティア 訪問記

## 第13回 全国ボランティアフェスティバル びわこ



テーマ 湖国から 広がる笑顔 地域のきずな



9月25日～26日にかけて滋賀県の総合会場、大津会場、草津会場、彦根会場に分かれて全国からのべ39,700人の参加がありました。どの会場も地元のボランティアグループの趣向を凝らした歓迎ブースであふれていました。一日目の総合会場で記念講演、ふれあい広場とパネル展示や活動紹介スペースがずらりと並び、各会場に分かれての交流会では琵琶湖周航の歌で締めくくる滋賀県ならではの盛り上がりでした。二日目には、ボランティア、環境、NPO、小地域活動、企業のフィランソロピーなどのたくさんのテーマで40にも上る分科会で全国の活動交流がされました。

豊中からは、彦根会場で「企業・団体ボランティアネットワークとよなか」が「企業の社会貢献グループの発展と躍進をめざして～フィランソロピーネットサミット会談～」の分科会で事例報告を行いました。会場には各都道府県の社会福祉協議会の職員や役員、企業の社会貢献担当者、経団連など様々な立場で企業の社会的な責任としての社会貢献活動のあり方について議論が白熱していました。



### 参加レポート 斎藤 杏子さん



秋晴れの青空の下に広がる琵琶湖を背景に開かれた全ボラびわこ彦根会場の分科会では、パネラーとして、「企業・団体ボランティアネットワークとよなか」の委員長松井淳太郎さんが参加。他14名のメンバーが出席。日本経団連より全国の活動状況報告、松江（企業ボランティア松江ネットワーク会議）、滋賀（淡海フィランソロピーネット）の活動報告、意見交換で充実した時間を体験。豊中は地味ではあるが、実質的で多岐多様な活動が繰り広げられているのを実感。11月のヒューマンカーニバルに向かってファイト！！

彦根会場には滋賀県東部、北部のさまざまなグループがステージや模擬店で、郷土色豊かな催しが繰り広げられていた。

前夜25日、月の光がキラキラ湖面に映える琵琶湖を目にしながら、参加者の交流が行われた。「コウスケ君のアサガオの種（朝顔の花を見ずに早世した小学校1年生のコウスケ君をしのんで配られた種）」をいただいたりして、他グループの方と活動状況を話し合った。それぞれ悩みを抱えながら頑張っているのを実感。最後は、ながはまシルバー合奏団「銀の櫂」の伴奏で全員大きな輪を作り、「琵琶湖周航の歌」が響きわたった。

3会場間、各交通機関（最寄の駅）の間はシャトルバスが運行され、ボランティアの方が案内に立ち、離れた会場の不便さを補っていた。



# 夏休みのボランティア活動

ボランティアセンターでは、今年も7、8月に学生や社会人、親子などを対象に講座や体験プログラムなどを実施しました。

## 親子ボランティア講座

車椅子で、福祉の店「なかま」へ行ったよ



毎年、小学校1～4年生とその保護者を対象に親子ボランティア講座を開催しています。親子で一緒にボランティア体験に取り組み、高齢者や障害者の方々の立場を理解する事を目的としています。今年は7月29日(木)に快晴の中開催。昨年参加の方もいて、合計11組26人の親子の参加がありました。

親子でボランティアについて学んだ後、「車イス体験」「点字・アイマスク体験」「手話体験」に分かれてボランティア体験を行いました。

体験後の報告会では、それぞれ体験したことを発表し、子どもからは「おもしろかった」「来年は車いす体験に参加したい」。親からは、「新鮮で貴重な体験になった」などの感想が寄せられました。

## サマーボランティアスクール

みんなでジャンケンゲーム



7月10日(土)、「ボランティア活動をはじめたい!」と考えている方を対象に実施し、44名の方が参加されました。

はじめに、京都光華女子大学 石井祐理子先生を講師にお迎えして、「ボランティア」についてジャンケンゲームをみんなでしたり、お話を聞いたりしながら考えました。その後、グループに分かれて車イス・アイマスク・インスタントシニア体験をそれぞれ行い、最後に、保育所や障害者作業所・特別養護老人ホームの職員さんからボランティア活動についての内容や注意事項などの説明を聞きました。

大部分の方が始めてボランティア活動を始める方で、みんな熱心に話を聞いたり、体験を行っていました。

## ボランティア体験プログラム

みんなでクッキーのラベル貼り  
(知的障害者授産施設 NAGOMI)



毎年7月～8月にかけて、大阪府ボランティア・市民活動センターと各市町村社会福祉協議会の共催で実施しています。

今年は、豊中市内では153名(延べ182名)が参加し、保育所や高齢者関連施設、障害者関連施設など市内41施設で様々な活動をされました。

参加者からは、「はじめは楽しみもあったけど、不安もありました。でもボランティアをして、自分的にたくさん学べたような気がします。(高齢者関連施設:女子中学生)」、「子ども達が寄ってきてくれてうれしかった。保育士の仕事はいろいろあるんだとわかった。(保育所:男子学生)」などの感想が寄せられました。受け入れ施設からは、「一般の人に施設の活動を知っていただくよい機会になった」「利用者と積極的に接していてよかった」といった反面、「無断欠席をして困った」、「もっと積極的に動いて欲しい」などの感想もありました。

# 精神障害者支援のモデル事業スタート

豊中市社会福祉協議会は、今年度大阪府社会福祉協議会の精神障害者地域支援事業のモデル地区に指定されました。そこで、10月4日(月)・18日(月)の両日にわたり、豊中市・豊中保健所などの関係機関、当事者や家族などの協力を得て、「こころのボランティア講座」を開催しました。

初日の講座では当初の定員を大幅に上回る52名の参加がありました。講座では豊中保健所職員による“精神障害とはどのような病気か?”の具体的な説明や当事者からは“精神障害の想い”をテーマにして精神障害への差別・偏見・誤解からくる生活のしづらさを報告していただき、先入観を捨てて健常者の考えを押しつけず、同じ目線でひとりの人間として対応して欲しいとの要望も出されました。



参加者の“精神障害”への関心は高く、質疑応答も活発に行われると同時に地域でのあたたかい見守りや支援が不可欠との意見が出されました。

今後も豊中市社会福祉協議会では精神障害者施設の見学やサロンなどを計画しており、精神障害者への支援を進めてまいります。



## 備えあれば憂いなし・・・

来年の1月17日で、阪神・淡路大震災から10年がたちます。

9月には地震もありました。その時の感想を寄せていただきました。

災害・地震は忘れた頃にやってくる。みなさんは、備えがちゃんとできていますか？

阪神・淡路大震災の時を連想して、数分の「揺れ」がますます大きくならないように祈りながら、支持金具がない本棚を倒れないよう妻と2人で押さえていました。(60代 男性)

女2人でしょう。びっくりしましたね。大きな地震の経験がありますので、今回の地震でも、命は惜しいから、とにかく助かることだけを考えました。避難すべき近くの中学校を思い浮かべたのは、助かった気分になってからです。(70代 女性)

揺れが長く続いたのでとても怖くてその日以来、寝るときはTシャツを着ていつでも逃げれるようにしている。(80代 女性)

阪神・淡路大震災の時よりも怖さがあり、避難袋の点検をし、足りないものを買って足したりしている。(女性)

人生観が変わりそう  
(90歳 女性)

忘れたような気がしていたけど、身体がしっかり覚えていた。(50代 女性)

慌てて、玄関や窓を開けて逃げ道を確保。しかし、ナベを火にかけているのに気づいたのは揺れがおさまってから。反省・・・(20代 女性)

# ボランティアは今

園芸ボランティア 入江忠徳さん  
 特定施設入所者生活介護施設  
 アミーユ豊中穂積 施設長 増山緑さん



今年3月ボランティアセンターからのボランティア募集に応じてアミーユ豊中穂積の園芸指導に参加、最初は月1回程度との依頼で開始し、初回は6名の参加者であったが、回を重ねる毎に参加希望者が増え、今では毎週開催し多いときには20数名の方に参加して頂いています。

施設長の増山です。私たちの有料老人ホームでは、地域との結びつきもひとつの大きな役割として大切に考えています。その中で、入居している方たちにとってなじみのある、さまざまな活動(趣味・習い事・自宅で行っていた習慣など)をしていただけるボランティアを受け入れています。

この度、「園芸」という多くの高齢者のなじみのある活動において、ボランティア募集をしたところ、多くの方のご協力を得ることができました。おかげさまで、花壇の周りには楽しそうに集う人、人、笑顔で指導員との対話を楽しむ人や、一緒に花を植えたり、種を蒔いたり、トマトの収穫をしたりとたのしいひと時を過ごしていただいています。

## 編集後記

いやー驚きましたね。というのも9月5日の地震。夕食時と寝入りばなの2回。日頃の訓練も忘れて、裸足で逃げ出す人もいたそうです。危ないですね！

いざというとき、冷静にきちんと対応できるには、やはり日頃の地道な訓練以外にはないのだ、と反省。(アクセス M. Y.)

## 今後の予定

- ★ 11月3日 : ヒューマンカーニバル
- ★ 11月10日、16日、19日、22日、  
26日、30日 : 年賀状ボランティア
- ★ ボランティアはじめま専科
  - ・11月23日: 青少年ボランティアグループ「つぼみ」
  - ・11月26日: 外出支援グループ「みちしるべ」
  - ・12月15日: ホームページ作成グループ「アクセス」

平成17年

- ★1月予定 : ボランティア新年の集い
- ★1月16日 : 震災10周年事業
- ★2月5日 : ボランティア団体連絡会  
北摂ブロック交流会
- ★3月6日 :  
第12回ボランティアフェスティバル

## ご協力ありがとうございました。 新潟・福井豪雨災害における募金

新潟・福井豪雨災害における義援金として募金箱を、8月3日～8月26日の間、福祉会館・ボランティア活動推進センターぷらっと、福祉の店「なかま」に設置しました。多くの皆様にご協力頂き、167,499円集まり、大阪府共同募金会豊中地区募金を通じて、新潟県・福井県に1/2ずつ配分しました。

ご協力ありがとうございました。

